

私が生きたために、私を殺す。という選択。

徒花

A D A B A N A

井浦新 水原希子

三浦透子 甲田益也子 板谷由夏 原日出子 / 斉藤由貴 永瀬正敏

脚本・監督

甲斐さやか

あなたの腐った命は、あなたの新鮮な命と、取り替えてください。



命と、取り替えてください。

「それ」とは、病にむしばまれた人間に提供される、もう一つの身体。

ウイルスの蔓延で人口が激減し、延命措置として上層階級の人間だけに「それ」の保有が許された。死が身近に迫る新次(井浦新)は、臨床心理士まほろ(水原希子)に自分の「それ」に会わせてほしいと懇願する。新次の「それ」は、自分と同じ姿をしながらも、異なる内面を持ち、純粋で知的であった。「それ」と対面した新次は、次第に「それ」を殺してまで、自分は生きながらえるべきなのか、心が乱されていき…。

徒花

A D A B A N A

長編映画デビュー作『赤い雪 Red Snow』(19)が第14回 JAJFF(Los Angeles Japan Film Festival)最優秀作品賞を受賞するなど、国内外問わず高く評価されている甲斐さやか監督のオリジナル最新作。主演に井浦新を迎え、水原希子、三浦透子、斉藤由貴、永瀬正敏と錚々たる実力派俳優陣が、本作の出演を熱望し、集結した。更に本作の編集には『落下の解剖学』(23)で第96回アカデミー賞編集賞にノミネートされたロラン・セネシャルと『ドライブ・マイ・カー』(21)編集の山崎梓が担当。甲斐監督と第一線で活躍するスタッフがタッグを組み、美しい化学反応が本作に解き放たれる。タイトルの『徒花』とは、「無駄な花」を意味するが、そこにこめられた美学と生命の価値とは。甲斐監督は、ここではないどこかの物語を描くことで、今ここにある「怖さ」を突きつける。

製作：大崎一成 中島茂介 伊藤貴宣 熊谷洋 藤川尚一 山本正典 田村輝 柳澤さやか 石井明子 長瀬龍二 プロデューサー：市川 昂 岩田広夫 ビックスタントラック 赤瀬賢司 土野良之 キャスティングディレクター：橋山由衣 撮影：高木大貴 照明：渡辺健大 録音：音響編集：中川 泰 美術：保田 謙 編集：山城 祥 音楽：キタノ ユヰカ VFX：音響設定 高松アザシラ 美術監修：LOISIR エキスパート：JOE ヘアメイク：宮坂雅典 特殊メイク：松岡聡一郎 劇中アートディレクション：小井和史 助監督：深澤直希 制作担当：久保田裕倫 ラインプロデューサー：古賀長一郎 音楽：長尾和哉 音楽プロデューサー：akiko クリエイティブディレクター：花倉謙英 タイトルロゴ：宮伝英希 宣伝美術：日高英明 制作プロダクション：ROBOT DISSIDENZ 配給：宣伝：NAKACHIKA PICTURES 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)独立行政法人日本芸術文化振興会 Aide aux Cinemas du Monde 2024年/日本 フランス、カラー/Slich /ヨーロッパビスタ 94分 ©2024「徒花-ADABANA」製作委員会 / DISSIDENZ



10/18 (金)

テアトル新宿、TOHOシネマズシャンテ
ほか全国順次公開